

旅

新聞で報じられた妻から夫への絶縁状。大正時代、「白蓮事件」として騒がれた情熱の歌人、柳原白蓮が「筑紫の炭鋺王」と十年間暮らした旧本邸が福岡県飯塚市にある。広大な庭園を見下ろす白蓮の居室にたたずみ、命をかけて自らの意志を貫いた「筑紫の女王」の生き方に思いをはせた。

「私は今あなたの妻として最後の手紙を差し上げます」。一九二一年秋、筑豊にその名をとどろかせた伊藤伝右衛門あての手紙が新聞紙上に公開されるや世間を巻き込む一大スキャンダルになった。世にいう「白蓮事件」だ。

飯塚市には大衆演劇の殿堂、嘉穂劇場や筑豊最大級の巻き上げ機台座など近代化の歴史が凝縮された遺産があちこちに残るが、とりわけ興味深いのが二〇〇七年春に公開された伝右衛門の旧本邸。才色兼備の元妻大正時代の三美人の一人といわれた歌人、白蓮との数奇な物語が魅惑する。

先進的な建築技術と粋をこらした優美な装飾。和洋折衷の近代和風邸宅は新飯塚駅から徒歩三十分、シーボルトや島津斉彬らが通った旧長崎街道に面している。敷地は七千五百七十平方尺。明治時代に建築、その後なんどか増築が繰り返され、延べ床面積は一十千

福岡・飯塚

筑紫の女王捨てた栄華



方外を超える。

玄関には高さ七尺の長屋門。心接間には英国製ステンドグラスがはめられ、イタリア製大理石の暖炉も。五十坪近く延びた邸下に面した各部屋のふすまや天袋には金ばくや銀ばくが惜しげもなく使われている。

九州初という水洗トイレもあった。二十五歳で東京から嫁いだ白蓮への気遣いがひしひしと伝わってくる。最も人気があるのはせいを尽くした二階の白蓮の居室。眼下には池を配した回遊式庭園が広がり、遠くには筑豊の山並みが望める。白蓮は居心地がいいその部屋で短歌づくりにいそしんだのだろう。

だが二人の年齢差は二十五歳。鉱山労働者から巨万



白蓮の部屋からは美しい回遊式庭園が見下ろせる

柳原白蓮 廣大邸宅 炭都の名残

「歌人白蓮想」には白蓮の写真資料も豊富 (⑤は有松さん)

の財をなした伝右衛門と大正天皇のいとこだった白蓮とは最初から埋められない溝があった。言葉、習慣、趣味、感性、そして伝右衛門の愛人やその子がひとつ屋根の下に暮らす複雑な人間関係に耐えきれず、白蓮は編集者として現れた七歳年下の東京帝大生、宮崎龍介と恋に落ちて出奔した。

わすかず十年間。栄華を誇った炭都を逃げ出した格好の白蓮だが、地元は温かく見守っている。遠賀川のふもとに歌碑が建てられ、飯塚市歴史資料館にはゆかりの品々が数多く残る。街角にも「歌人白蓮想」と名付けられた展示施設があった。自費で手紙や初版本などを集めて公開したのが有松道子さん(65)。「魅力的な伝右衛門さんと白蓮さんをもっともっと知ってもらいたいから」と語る。

まだ姦通(かんつう)罪があった時代。伝右衛門を慕う気の荒い地元の男から「殺してやる」とまでい

われた白蓮の選択は命がけだった。その道行き相手の宮崎龍介とはどんな人物なのか。彼のふるさとに足を運んだ。飯塚市と同じ炭鋺で栄えた熊本県荒尾市。龍介は孫文と交流し、中国革命にも寄与した滔天(とうてん)の長男だった。生家に併設して「宮崎兄弟資料館」があり、宮崎一族の功績にまじり、小さいながらも白蓮コーナーがあった。

反骨精神に富み、自由、平等を求めた宮崎家の面々。その熱い血は龍介にも受け継がれたのだろう。白蓮の置かれた立場や環境を見過すことができなかったのかもしれない。

興味深かったのは女性観光客がみせる白蓮の行動に対する反応。「魅力的。いやなことはいやというの当たり前」。若い人は例外なく肯定的だったが、年配者は「そういう時代。我慢するのが女のつとめ」と概して否定的だった。大正という時代、女性の生き方を再考するいい機会になった。

(編集委員 芹田富雄)



☆ 旅支度

新飯塚駅は博多駅からJRで約四十分。嘉穂劇場は江戸時代の歌舞伎小屋様式を伝える貴重な建物。人力で舞台を回す舞台裏の見学

歌舞伎文化 資料も豊富

もできる。飯塚市では二月七日から三月三日までこの嘉穂劇場や旧伊藤伝右衛門

邸など十数カ所江戸時代からの数百体の人形と道具を展示する恒例の「雛ひいなまつり」が開かれる。宮崎兄弟資料館は博多からJR快速で約七十分の荒尾駅から徒歩約十五分。飯塚市内の施設に対する問い合わせは飯塚観光協会(☎0948-22-3511)。